

2019年9月25日

福岡県柳川市における観光とまちづくりに関するフィールドワーク
(人文社会科学部後援会支援事業報告書)

塚原 伸治

○フィールドワーク概要

2019年9月2日から9月5日の4日間の日程で、福岡県柳川市における商店街とまちづくりに関するフィールドワークを実施した。参加者は塚原ゼミ所属の3年生および指導教員の塚原である。本フィールドワークの実施にあたって、人文社会科学部後援会の支援を受けた。

城下町柳川の都市計画を実施した田中吉政の菩提寺でもある田中山真勝寺（柳川市新町）を拠点に、おもに「城下町柳川の歴史」と「環境を生かしたまちづくり」という2つのテーマに沿って、巡検及び聞き取り調査を行った。

1. 城下町柳川の歴史

①田中氏

柳川藩の城下町であった柳川は、立花家の領地として知られるが、堀割を整備しまちづくりをおこなったのは関ヶ原の合戦後に筑後国主として柳川城に入った田中吉政であった。今回のフィールドワークの拠点とさせていただいた真勝寺は、田中吉政の菩提寺である。吉政の死後に埋葬して墓石を建て、その墓石を囲うようにして伽藍を建立したのが真勝寺の本堂となった。すなわち、本堂自体が被葬者の墓となっている非常に珍しい形式をもっている。実際に本堂軒下の墓石を見学しつつ、住職の草野無我氏より、建立の経緯について説明を受けた。

②立花氏

立花氏の改易後に柳川城に入ったのが立花宗茂で、その後幕末まで柳川は立花氏の領地となった。立花氏と関連する数か所をたずね、城下町柳川の歴史が現在に息づく様子を理解した。主に下記の場所に訪れた。

三柱神社：柳川藩主立花宗茂、戸次道雪、間千代の3名を神として祀った神社である。毎年10月には「おにぎえ」という賑やかな祭礼が開催される。

御花：もともと藩主立花家の邸宅であり、この付近が「御花島」と呼ばれていたことからこの名称でよばれた。現在では立花家が旅館を経営しており、展示施設にもなっている。



図1 真勝寺山門



図2 住職草野氏から田中吉政の墓について説明をうける



図3 柳川古文書館



図4 三柱神社



図5 御花



図6 松濤園

2. 環境を生かしたまちづくり

町中を掘割がめぐっていることで有名な柳川では、掘割を生かした観光事業が行われている。実際に船下りを体験しながら、柳川における観光事業の現状について理解した。また、自身も観光ホテルの経営者である柳川観光協会副会長の富安氏に対する聞き取り調査を行

ない、柳川における観光産業の今後について展望をうかがうことができた。

また、沖端地区と柳河地区の二か所の商店街の巡検を実施し、商店街の町並みの歴史と現状について理解した。同時に、地方都市商店街が置かれた苦境についての現状をみることもできた。柳川商店街ではここ近年若手経営者による出店が相次いでおり、商店街のこれからの変化についても考えた。

柳川は、有明海沿岸という環境を生かして海苔養殖が盛んな土地でもある。成清海苔店の成清忠氏から、有明海の海苔産業の現状について話をうかがった。



図7 船頭から町の歴史を聞く



図8 柳川観光協会



図9 成清海苔店



図10 京町の町並み